



# 山形スタディーツアー 高畠町

久慈紗緒里

井上慶太

權 娜怜

水野亜美

小畑賢汰

# アジェンダ

- 1) 目標
- 2) 高畠の行程紹介
- 3) STで学んだこと
- 4) 「はたまる」について一第3の居場所とは
- 5) 大学生としての参画
  - 勉強支援
  - 交流の場創出
  - メンター
- 6) 具体的なスケジュール
- 7) 高畠町役場への提案
- 8) まとめ

# 現地活動の目標

教育を切り口に

36

TAKAHATA TRAVEL

T



地域の魅力を知らずに、町を出ていく  
若者の流出、地域力の低下、地域産業の弱体化

37

TAKAHATA TRAVEL

T

## 《現地活動の目標》

「教育」を切り口に地方への  
人の流れのきっかけを作る

「人財育成」「教育事業」「子育て支援事業」を学び  
今後の移住定住施策の課題を考える

※高田町は、「日本一 人を育てるまち」をスローガンにまちづくりを進めています

38

TAKAHATA TRAVEL

T

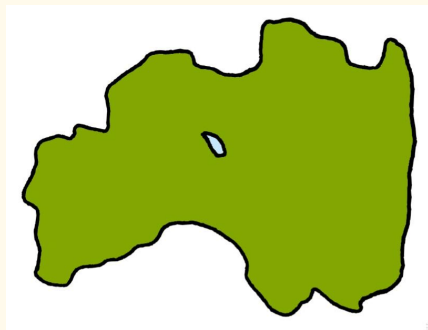


# 1 日目

総務省主催

## 地域運営組織セミナー

Region Management Organization



高畠中学校





# 2 日目



瓜割石庭公園



旧高畠駅



高畠ワイナリー

# 2 日目

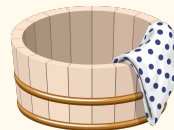
ぶどう農園



「中高生に  
伝えたいこと」



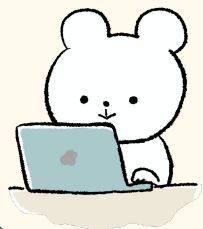
駅中の銭湯



# 3 日目

## 午前

プレゼンテーションの  
ための準備。



あわえ  
吉田さん

## デュアルスクール 町内二井宿小学校

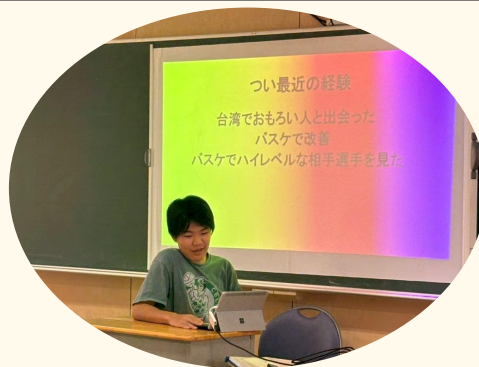


## 高畠町立高畠高校

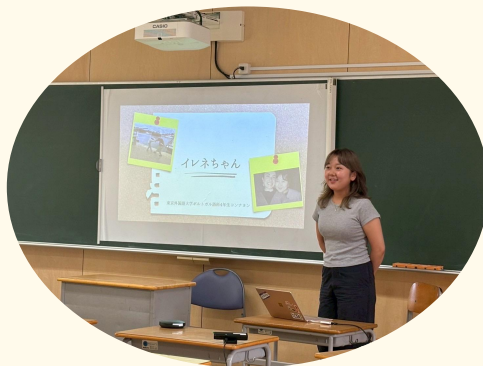




# 3 日目



## 高畠高校で プレゼンテーション





# 4 日目

浜田広介記念館

## 「泣いた赤鬼」

午前

自身の振り返り  
リーダーシップ



# 4 日目

## はたまる事業



菓子工房ココイズミヤ



# STで学んだこと 「人を育てる街 高畠」

- ・RMO 地域運営組織
- ・デュアルスクール 二井宿小学校 株式会社あわせ
- ・高畠町役場の事業

「日本一人を育てるまちーいつ来ても新鮮なまちー」

- ①官民連携のプラットフォーム連携事業
- ②産業リーダー:経営人材育成塾事業
- ③教育:学び場事業はたまる
- ④女性活躍:オリンピックによるコンディショニング指導
- ⑤二地域居住:デュアルスクール 関係人口を増やしたい

# 高畠町の事業「はたまる」に関して

探究教室ESTEM 学び場創出業務  
学び場事業「はたまる」中学生35名 高校生30名

週に三回ほど施設を使って中高生の学びを支援

→高畠中学校・高畠高校の生徒が自ら課題を  
設定し、その解決に向けた探究活動

「1万人のモザイクアート」  
「青竹ちょうちん祭り」





# 大学生としてどう参画するかー第三の居場所とは？

「自分を見つめ直す」「仲間と語り合う」「人生の可能性を広げる」場所

学校や家だけでは出会えない人と関わる機会を得られる場所。

新しい自分の一面に気づく場所。

「知らないことを知る」場所。自分の世界が広がる場所。

安心して自分を曝け出すことのできる場所。

誰にでも開かれた場所。

学校の科目を机の上で勉強しているだけでは得られないことを学べる(経験できる)場所。

進路は違っても、同じ世代の仲間や大学生とかと支えあえる場所

# 大学生としてどう参画するかー第三の居場所とは？

## 第3の居場所

→自分を見つめ、人との繋がりで成長できる場所

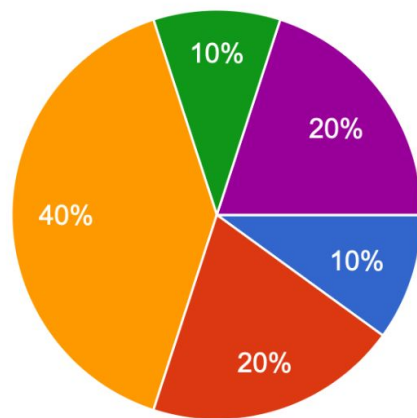
# 大学生としてどう参画するか



# 大学生としてどう参画するかアンケート結果

学年

10 件の回答



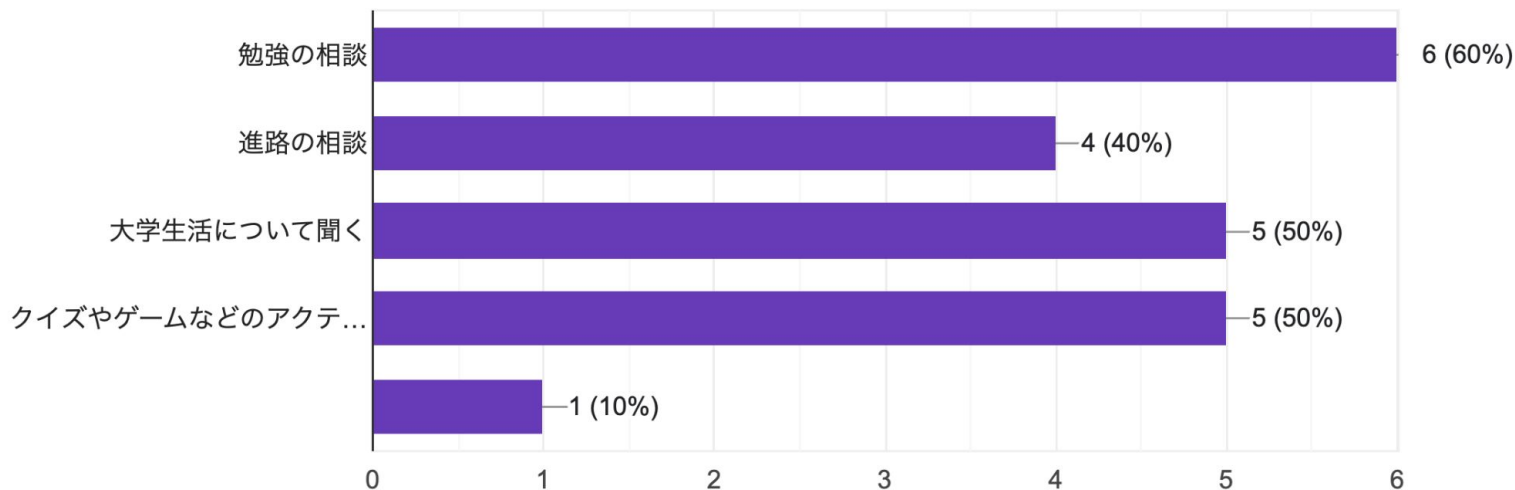
- 中学1年
- 中学2年
- 中学3年
- 高校1年
- 高校2年
- 高校3年



# 大学生としてどう参画するかアンケート結果

1) 週1回大学生と交流するなら何をしてみたいですか?

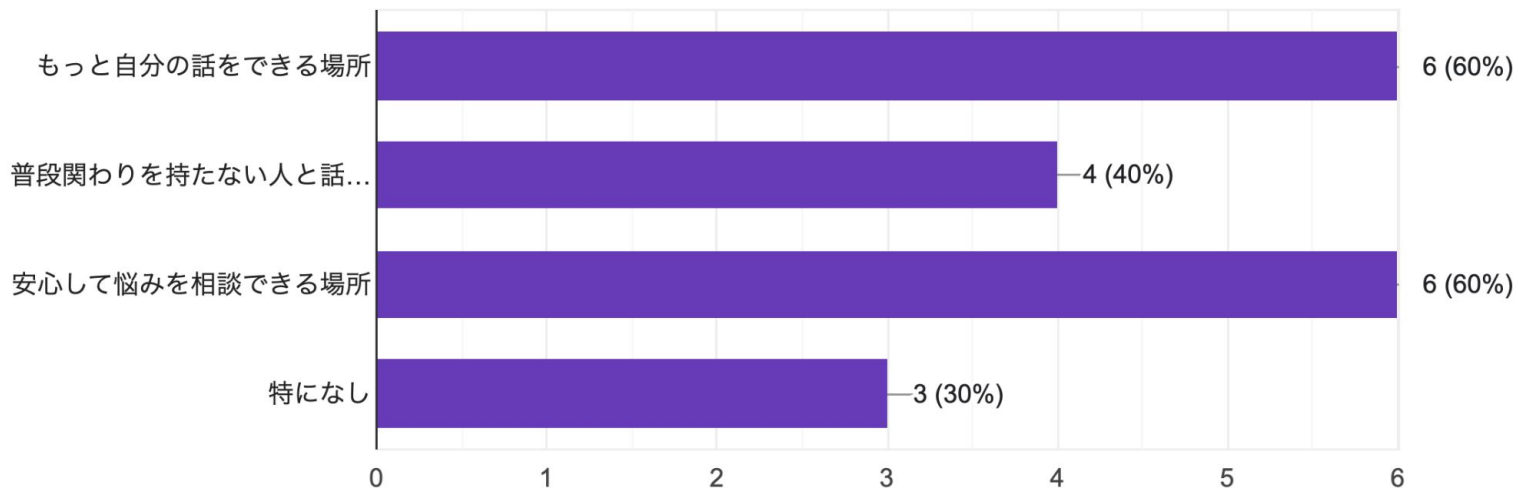
10 件の回答



# 大学生としてどう参画するかアンケート結果

## 2) 家と学校以外で欲しい場

10件の回答



# 大学生としてどう参画するかアンケート結果

具体的に話してみたい内容:

ー趣味のこと・思春期特有の悩み相談

ー親には相談しにくいような悩み

ークラス委員やリーダーとして、自分はどこにいればいいのか。クラス委員などで、意見を出し合うときにどんな進め方をすればいいのか。なにも指示しないよりは間違っているけども指示するべきか。自分はどの位置がいいのか(前を引っ張ったり、後ろから後押ししたりすること)

ーリアルな大学生活を知りたい

など

# 大学生としてどう参画するか

## 大学生から共有できる内容

- 専攻のこと
  - ・自分の専攻紹介
  - ・専攻を選んだきっかけや道のり
- 等身大の視点
  - ・年齢が近いからこそ分かる悩みや不安
  - ・勉強のサポートやアドバイス
- リアルな体験談
  - ・大学生活の雰囲気やエピソード

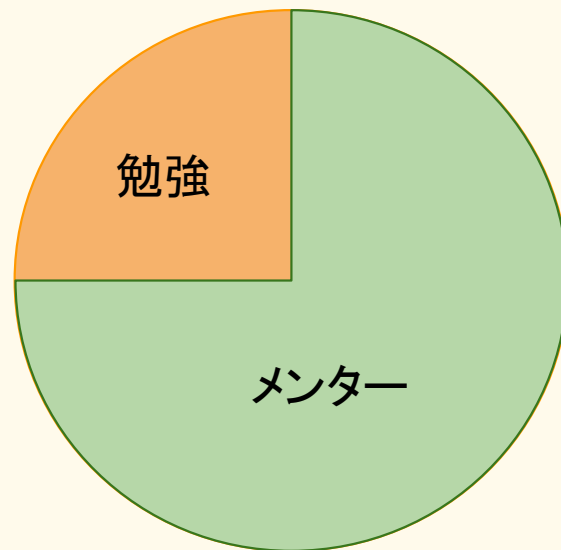
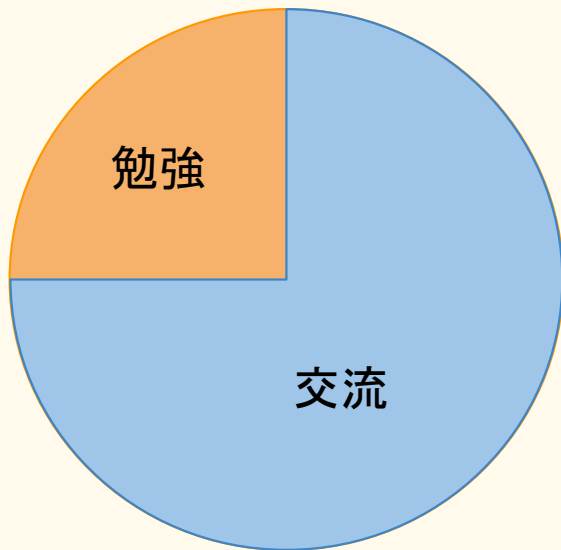


1. 勉強
2. 交流の場
3. メンター



## 具体的な関わり方

交流・メンター(45分) + 勉強(15分)



勉強



## 直接的な勉強の支援

内容: 勉強の相談、質問対応(オンラインや文面上など)が主になるが、特にカリキュラムなどを作る予定も無いので柔軟に対応可能

実施形態: 一人、若しくは少人数の中高生に一人の大学生がつくイメージ

意義: 学校の学習などに課題を抱える生徒をサポートできる。

課題: 大学生の頭数の確保がやや難しく、交流の創出が単独では難しい。

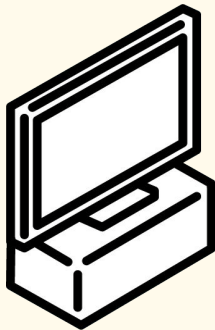
展望: 他の業務と平行して行えるものであると考えられるため、中高生のニーズを探りながら展開していけるはず。

# 交流の場



# 実施体系

大学生はZOOMで参加



地域の方が場所提供

中高生はひとつの場に来まる





# 交流の場

「安心して話せる場所」

「仲間と語り合い」

「自分自身を見つめる」

## 1. 導入

自己紹介

## 2. あそび

大学生は専攻など、地域の方は町についてのゲームやクイズを用意

## 3. グループ交流

数人に分かれ、提供されたお題について話す

## 4. 共有

みんなにシェアしたい話を発表

## 5. まとめ

大学生がコメント

# 意義

## 中高生

- ひとつの場所に集まる
- 同世代の仲間、大学生、地域の方と語り合う



**自己理解**や**将来への気づき**を得る。  
「安心して話せる場」ができる。

## 地域の方

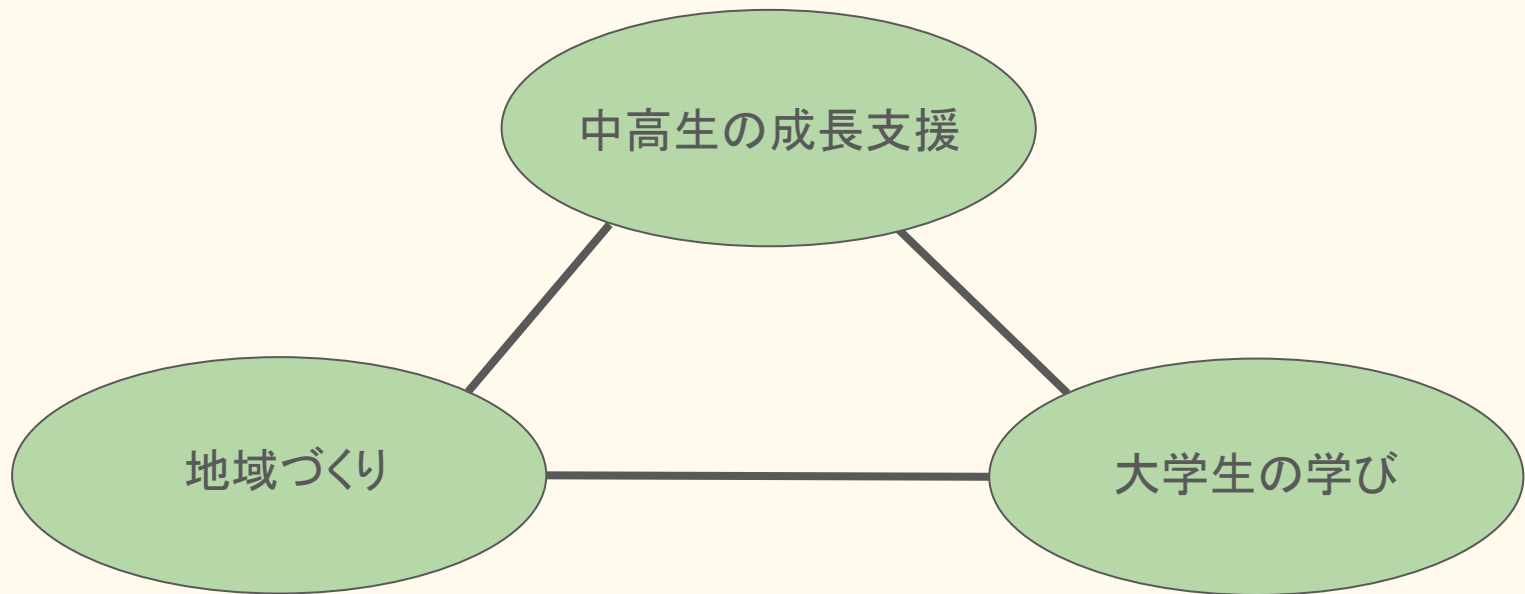
- 場所を提供
- 大学生と一緒に企画
- 中高生と混ざって語り合う



地域の**若者と交流**ができ、  
自分たちの活動を他地域の  
大学生にも**広める**ことができる。



# 展望





メンター

## 授業内容

大学生がこれまでの経験  
（大学選び、進路選択、  
興味関心の広げ方等）を、  
スライド共有をしながら  
会話形式で伝え、一緒に  
将来について考える。

### 1時間のタイムスケジュール例

1. 自己紹介
2. 雑談
3. 何に悩んでいるかを聞く
4. 大学生はその悩みにどう向き合ったかを話す
5. その向き合い方を参考に中高生自身の立場で一緒にデモンストレーションしてみる
6. そのほかの悩みへの対処法をいくつか紹介する
7. 質問タイム
8. 振り返り

## 意義

### 中高生

- 自分たちと近い目線からの助言
- 身近なロールモデルとして参考にできる



- 学校以外で進路相談や、身近な相談ができる
  - ぼんやりとした将来像を、具体的なものにするきっかけになる
  - 大学生の知識やノウハウから、新しい世界や選択肢を知ることができる
- 将来の選択の幅が広がる

# 課題

課題：

- 高畠の中高生の現状を十分に知らないと、有効な助言ができない。
- 大学生側に助言のための十分なノウハウや伝える力がない。
- 継続的に中高生と大学生が関わり、信頼関係を育まないと、悩みを打ち明けづらい  
地域の方々との関わりが薄い

# 一年間のスケジュール

4月から7月中旬 新入生のニーズを探りながら事業を展開

7月中旬から9月 休みを使って実際に高畠に行くなど、親交を深める

10月から1月 親交を深めて分かったことを基に事業を展開

2月から3月 休みを使って実際に高畠に行くなど、親交を深める

卒業する人たちからフィードバックなどの意見をもらう

# 一か月のスケジュールの一例

一週目：交流をメインに勉強支援も行う

二週目：メンター事業をする

三週目：前二週の反省を踏まえて交流をメインに活動

四週目：メンター事業をしつつ全体でその月の総括



## 高畠町役場への提案

効果的・持続的に事業を進めるために...

大学生側にもメリットがある必要

例)

- ・ファシリテーション力・リーダーシップ・オンラインでの表現力が磨かれる。

# 高島町役場への提案

## ボランティア証明書の発行

民間企業と行政のかかわる「はたまる」事業に大学生が参加し、貢献したことを証明していただきたい。

大学生にとって「学生時代に力を入れたこと」は、就活などの際に重要である。このはたまる事業への参加を、行政が証明してくれる制度があれば、大学生はこの事業に積極的姿勢を持って取り組むことができる。

## まとめー課題と展望

### 1) 中高生の声を反映した活動の改善

中高生が必要としているものを把握するために行った取り組みのフィードバックの集計と定期的なニーズ調査を行う

### 2) オンライン運営を支える現地との協力による場づくり

安心して参加できる雰囲気作りのために現地の地域の方と大学生の協力が不可欠

・現在の中高生のニーズが把握できていない以上、一番初めに行うことができる事業と後々実現していかなければいけない事業には差がある。ゆえに、段階的にこの事業を進めていく必要がある。？

**ご清聴ありがとうございました！**

## 課題と展望

- ・中高生が本当に必要としているものはなんなのか、行った取り組みのフィードバックを必ず集めるとともに、ニーズ調査を継続する必要がある。
- ・現在の中高生のニーズが把握できていない以上、一番初めに行うことができる事業と後々実現していかなければいけない事業には差がある。ゆえに、段階的にこの事業を進めていく必要がある。
- ・就活において、ボランティア証明のようなものは現状あるのかどうか、どのくらい活用できるのか等の知識がない。(→調べる！)